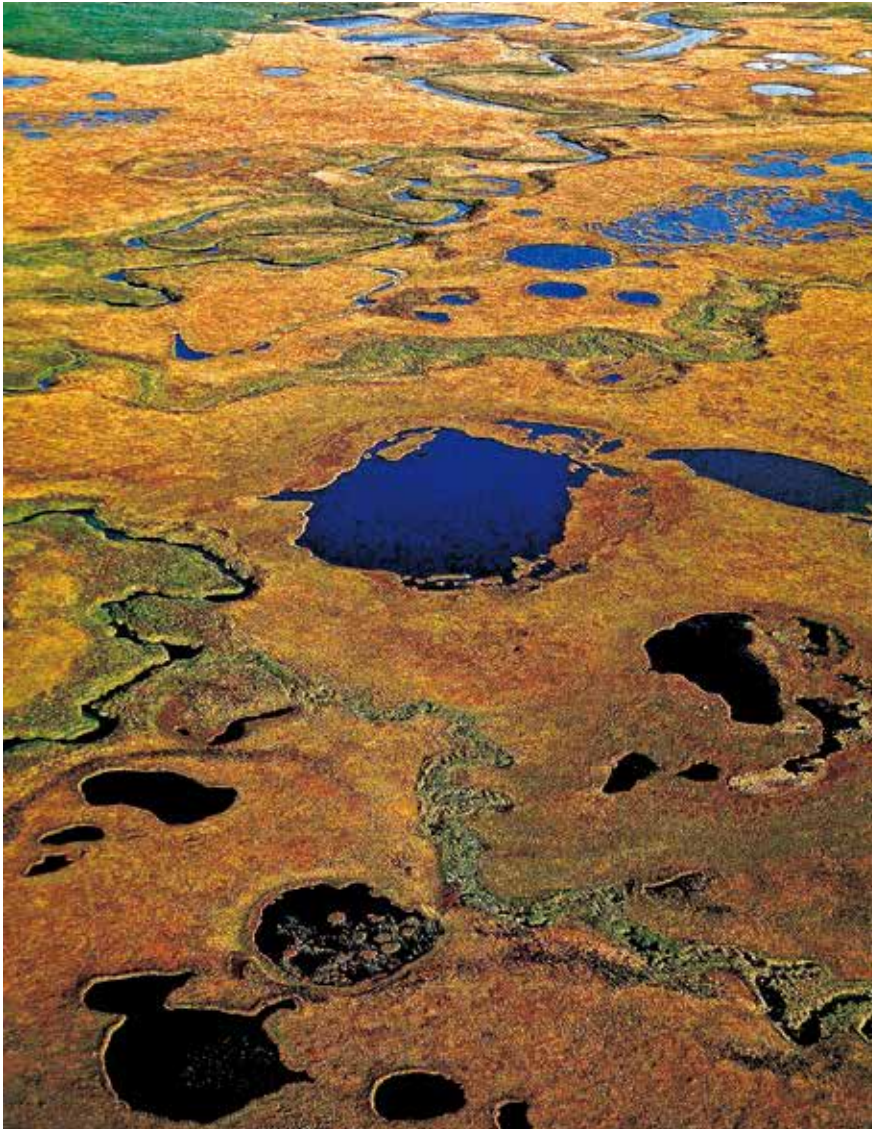


雨竜沼湿原

(うりゅうぬましづげん)

位置：北緯43度41分、東経141度36分／標高：850～900m／面積：624ha／湿地のタイプ：高層湿原／保護の制度：国定公園特別保護地区／所在地：北海道雨竜町／登録：2005年11月／国際登録基準：3

湿地のタイプ：高層湿原



東から見た湿原の全景 (写真：岡本洋典)

湿地の概要：

札幌市からほぼ真北へ70km、増毛山地の暑寒別(しょかんべつ)岳の東側斜面の標高850m付近に広がるのが雨竜沼湿原である。火山の溶岩流でできた窪地に発達した、東西4km、南北2km、面積100ヘクタールほどの湿原である。全体として北西部から南東部にゆるやかに傾斜し、中央部をペンケベタン川が蛇行しながら貫流。湿原の東端で急斜面の崖となつて、狭い峡谷を流れ下る。

この山群は標高1,500m以下と高くはないが、日本海に面して直立しているため、北海道内でも有数の豪雪地帯である。冬は3m以上の雪が積もり、半年以上にわたって湿原は雪に閉ざされる。この豊富な雪解け水が長い年月をかけて湿原を涵

養し、尾瀬に次ぐ我が国第2の規模の山岳高層湿原を形成した。

多様な湿原植物群落：

雨竜沼湿原はヌマガヤイボミズゴケ群落、ヌマガヤーホロムイスゲ群落、ホロムイソウミカツグサ群落、ウツクシミズゴケ群落などからなり、池塘にはホソバウキミクリ群落、カラフトカササゲ群落、ミツガシワ群落、カキツバタ群落などの水生植物、川辺にはイワノガリヤスーコバイケイソウ群落と、多様な植生によって構成されている。確認されている植物種は約150種。どれもがきわめて自然度の高い状態で残されている。

6月～9月の夏のシーズンにはエゾカンゾウ、ヒオウギアヤメ、タチギボウシなどの花々が湿原一面に咲き乱れる。



下流から遠望する雨竜沼湿原の全景 (写真：岡本洋典)



池塘のウリウコウホネ (写真：岡本洋典)

しかし、なんといっても雨竜沼湿原を特徴づけているのは、点在する大小100以上の池塘と、池塘に浮かぶ浮島の存在である。そして池塘は、雨竜沼タイプといわれるベニヒカゲ、エゾヒメギフチョウなどの希少なチョウ類やエゾルリイトトンボなど湿原特有の多様な昆虫、動物たちを育てている。

外来種の駆除：

自然度の高いこの湿原を守るため、地元にはNGO「雨竜沼を愛する会」が結成され、定期的に外来植物のセイタカアワダチソウの駆除や、湿原入口に入山者のための靴底の洗い場を設置するなど、様々な保全、維持管理の取組を行っている。

【池塘】 湿原にできる円形や楕円形などの、大小様々な形をした沼。高層湿原の形成過程でできたもので、枯れた植物が堆積するとき、湿原に凹凸ができて水がたまり、泥炭層の発達に取り残されて池塘となった。

●関係自治体

雨竜町役場 Tel: 0125-77-2211

